

5. 圏域別(石巻・登米・気仙沼圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の東側に位置しており、登米市、気仙沼市、石巻市、東松島市、南三陸町、女川町の4市2町から構成される。

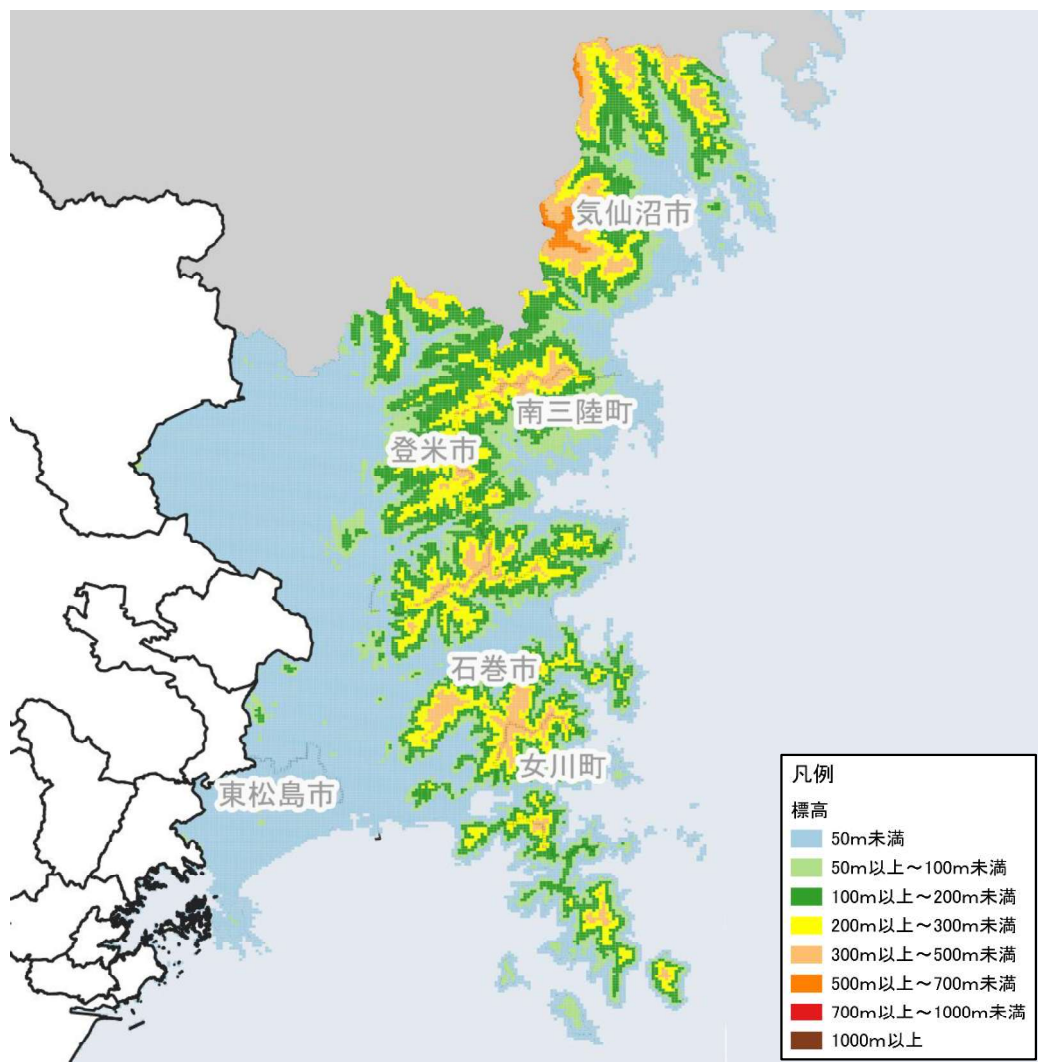


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで減少傾向にある。今後も継続して減少する見込みであり、令和12年には286千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には38.9%と令和2年から4.2ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転出者数が転入者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でマイナスとなっている。

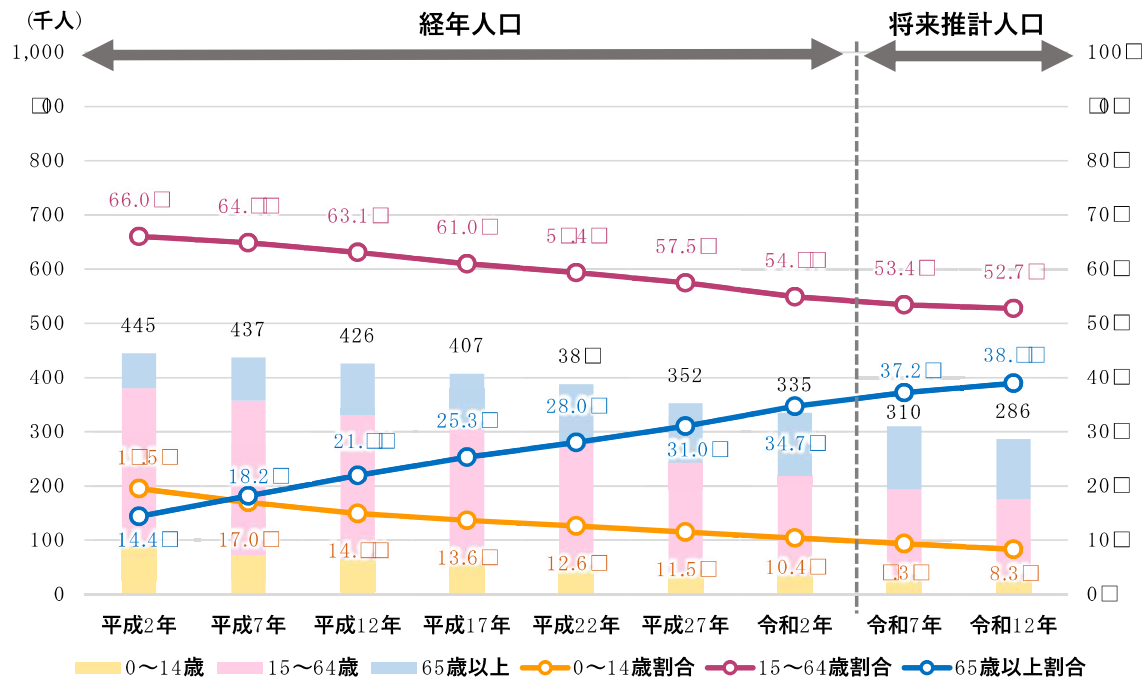


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む
 出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和2年）
 国立社会保障・人口問題研究所
 日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

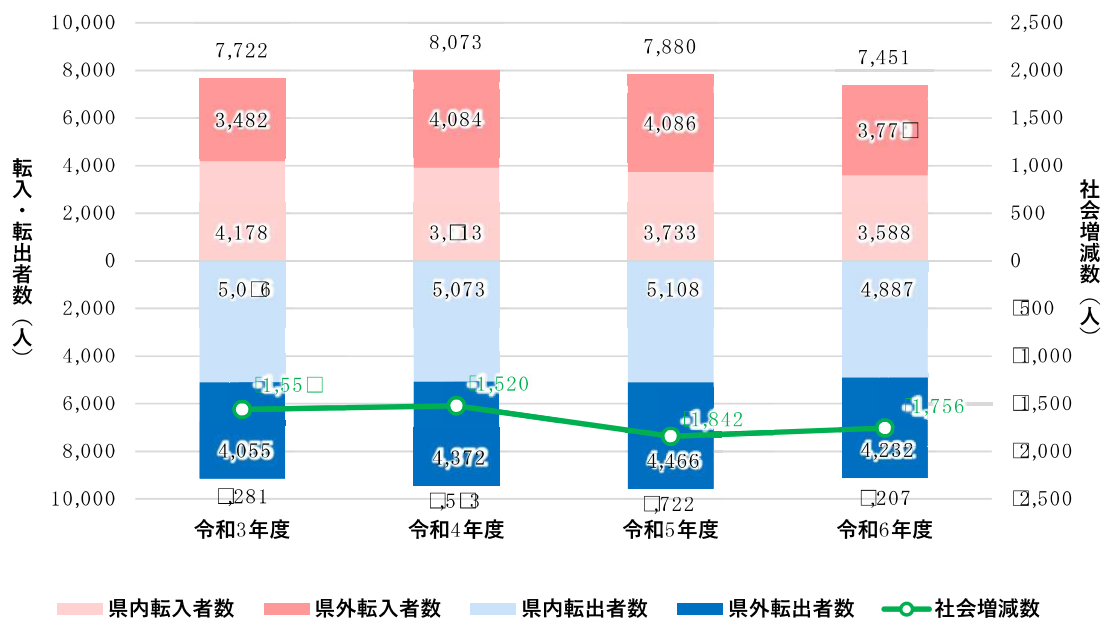


図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む
 出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、気仙沼市（89.0%）、石巻市（80.1%）、女川町（77.3%）、南三陸町（77.6%）、登米市（75.4%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

通学流動は、気仙沼市（89.0%）、石巻市（66.6%）、南三陸町（52.8%）、登米市（60.0%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、東松島市から石巻市へ6,000人、仙台市へ1,000人以上の移動がある。また、石巻市から東松島市、仙台市へ3,000人程度、女川町へ2,000人程度が移動している。加えて、登米市から栗原市へ2,000人以上、石巻市、大崎市、仙台市へ1,000人以上が移動している。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量（通勤+通学）

単位：人

通勤・通学先→ 居住地↓	石巻・登米・気仙沼圏域						近隣市町村				その他		
	石巻市	東松島市	女川町	気仙沼市	南三陸町	登米市	涌谷町	美里町	大崎市	栗原市	仙台市	多賀城市	一関市
石巻・ 気仙沼 登米・ 圏域	石巻市	55,849	3,141	1,955	100	122	751	493	279	600	69	2,987	335
	東松島市	6,732	8,700	174	20	19	121	100	123	307	21	1,669	231
	女川町	697	38	2,673	3	2	5	1	3	4	4	57	4
	気仙沼市	91	3	9	27,488	417	192	1	1	12	14	175	8
	南三陸町	174	11	8	530	5,000	425	2	1	26	20	84	6
	登米市	1,742	131	32	263	633	31,024	386	200	1,273	2,361	1,149	167
近隣市 町村	涌谷町	827	114	17	11	9	354	3,994	615	1,282	75	478	38
	美里町	621	171	12	17	9	209	678	4,980	3,156	199	1,193	80
	大崎市	969	232	31	51	15	744	1,011	2,196	47,375	1,757	5,199	243
	栗原市	133	26	6	38	25	1,817	79	176	2,197	26,139	1,061	41
そ の 他	仙台市	1,775	351	146	244	49	272	88	227	2,260	369	481,024	6,304
	多賀城市	285	94	13	13	4	23	12	34	135	16	13,347	10,326
	一関市	32	10	1	761	18	472	5	7	85	891	304	3

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）

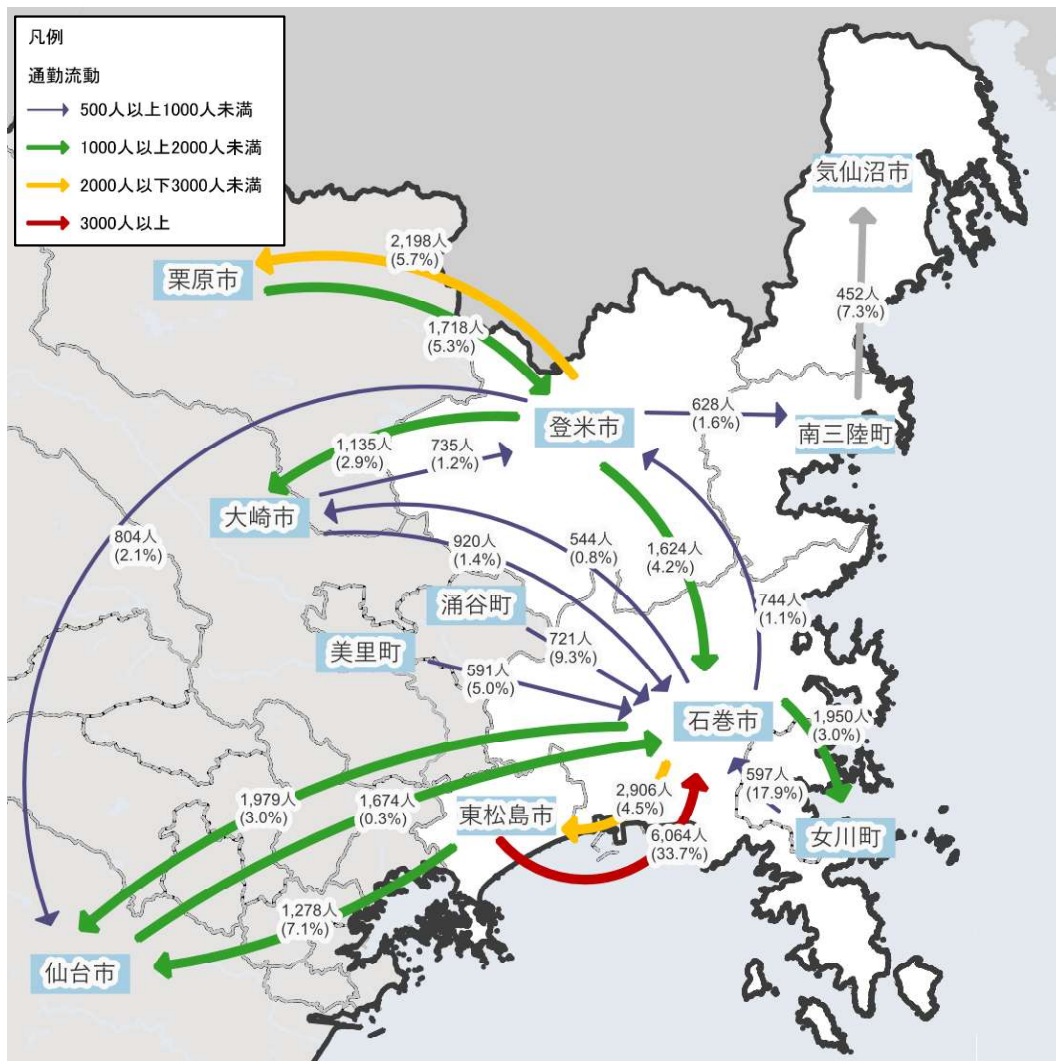


図 通勤流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)
 ※500人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

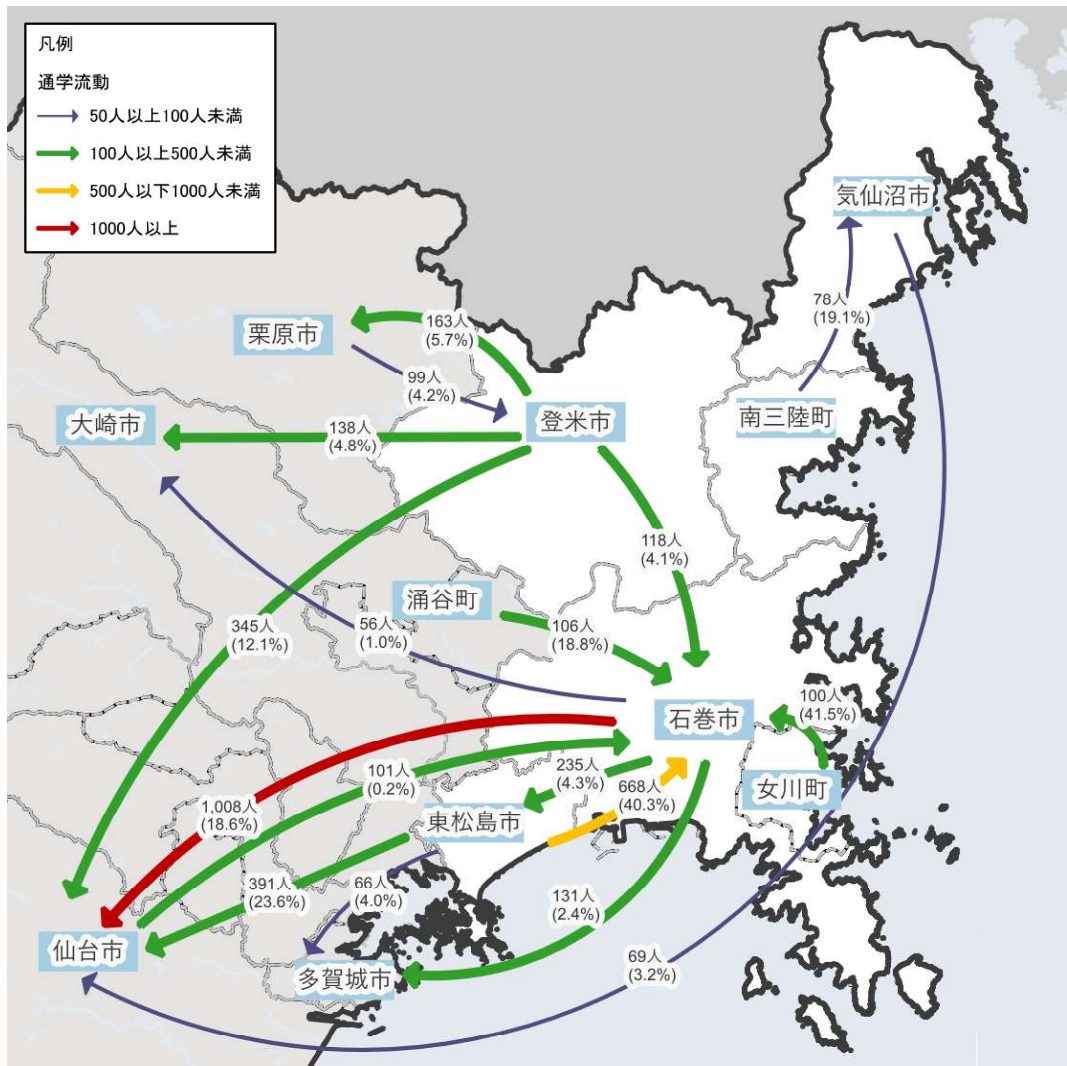


図 通学流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)
 ※50人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が77.8%と最も高く、次いで徒歩・自転車が10.6%と続いている。公共交通が6.5%（乗合バス等（1.9%）、鉄道（4.6%））を占め、公共交通の分担率が最も高い仙台圏域（28.8%）と22.3ポイントの差がある。

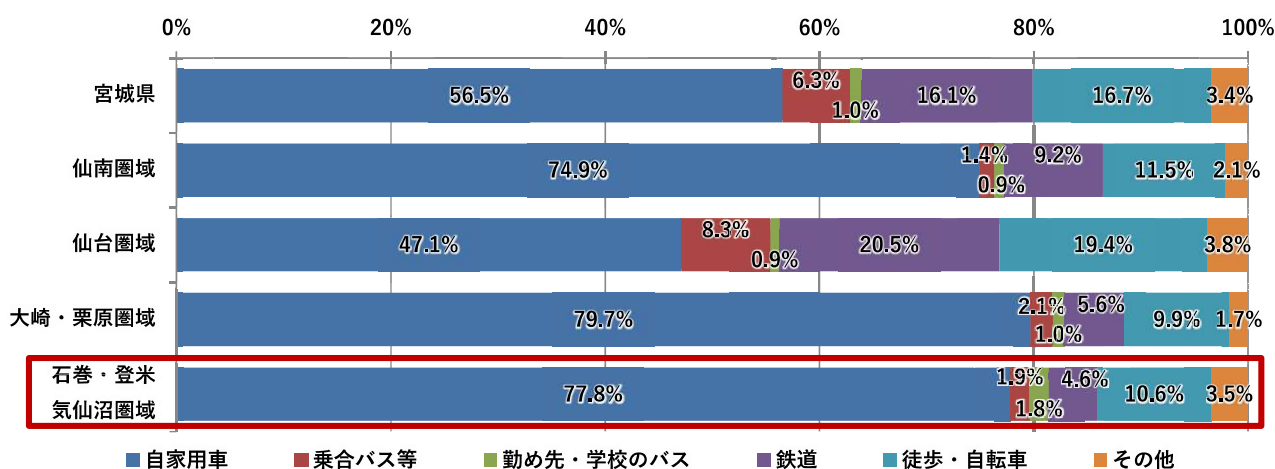


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物物流動は、石巻市に集まる傾向がある。一方で、南三陸町は周辺の自治体へ移動が分散する傾向がある。

市町村間をまたぐ買い物物流動の傾向が強いのは、女川町から石巻市への移動(78.7%)となっている。

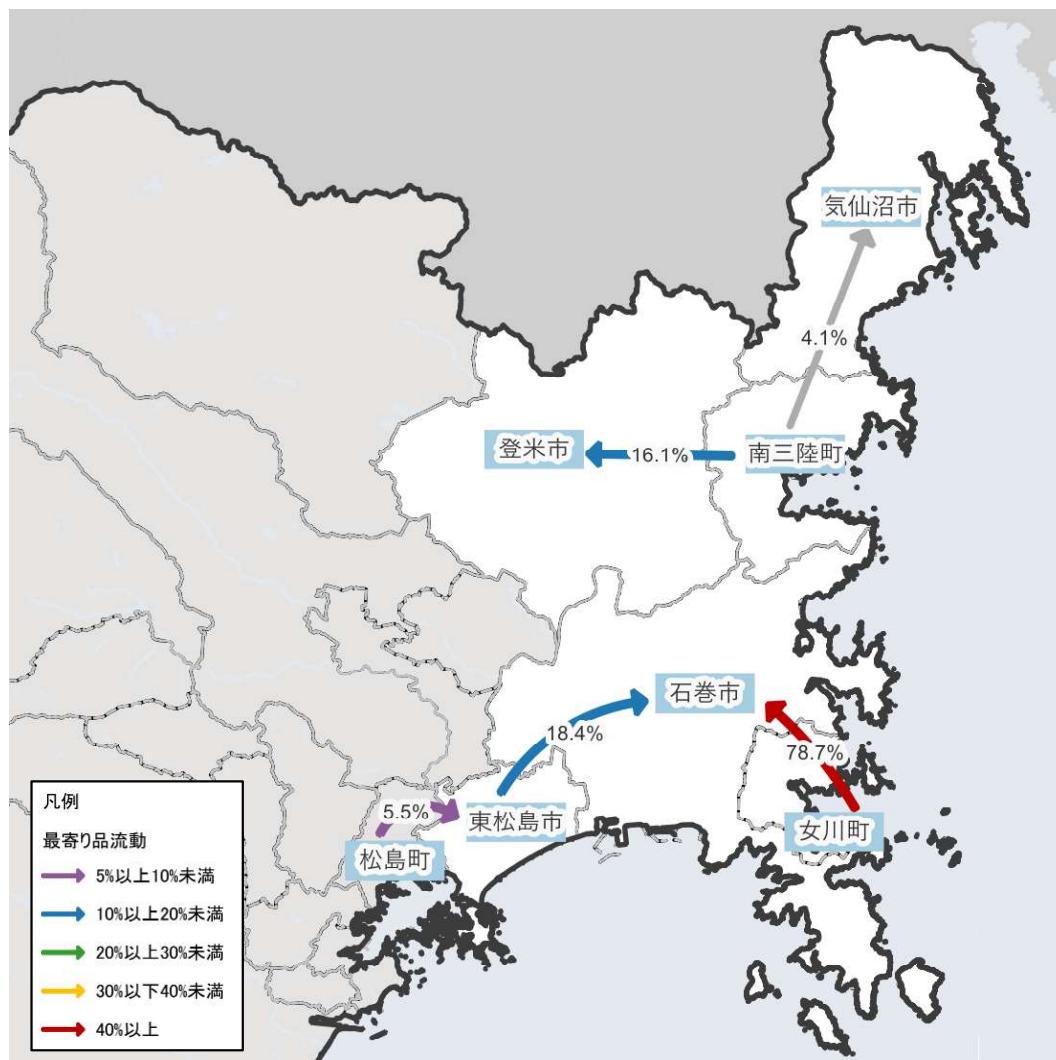


図 買い物物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示。ただし、各市町村における最大値については表示
※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、
該当市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、唐桑半島や国立公園気仙沼大島、岩井崎園地で 10～50 万人の施設利用がみられる。

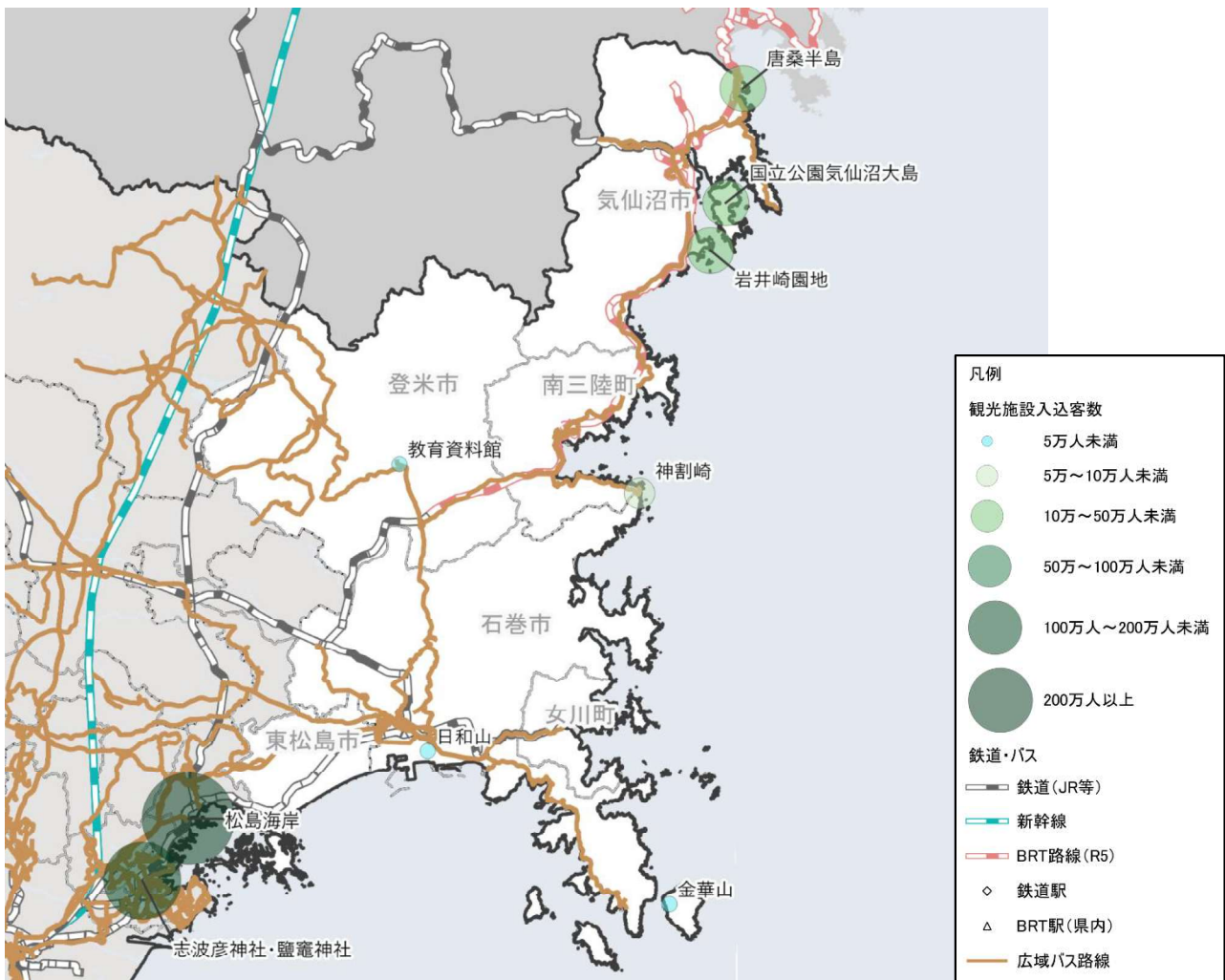


図 施設利用者数(令和 5 年)

出典：宮城県観光統計概要 表 8 (令和 5 年)